

「忘年会」

2014年12月30日

現役の牧師の時は「忘年会」などとは縁がなかった。年末に「クリスマス会」と称して、私たち夫婦で水炊きを用意し、壮年会で飲み会を毎年した。近隣教会の壮年会員も来られた。頃合いを見て、一人ひとりにスピーチをしてもらい、楽しい会であった。隠退し、9条の会に積極的に参加できるようになり、今年は、9条の会で3回の忘年会をした。世の中の人々は忘年会がお好きのようである。何かにかこつけて、飲みたいのであろう。しかし、日頃聞けない話があって、楽しく有意義であった。

港南区9条の会は「九条の会」の事務局長の小森陽一氏を招いて発足会をし、盛大に出発した。時々、賛同者が集まり、意見交換会をしている。世話人は小人数であるが、ジャーナリズム関係の人たちがおられ、色々な情報を知らせてくれる。9条を守り、平和を作り出そうとする集会は新聞、テレビではめったに報道されないが、驚くほど数多く、各地で地道に持たれている。これらの運動が深いところで、日本の平和を支えてきたのではないかと思う。熱心な共産党員もおられ、沖縄の県知事選、衆議院選挙は「イデオロギーでなく、アイデンティティの闘いであった」というのを聞いて、「あなたのその発言を嬉しく思う」と、イデオロギッシュになりがちな共産党員のアイデンティティを評価する言葉に賛同した。港南区9条の会は時事放談が多いが、忘年会で、10周年の記念講演会をしようという話がまとまった。

根岸線沿線9条の会は連絡会を持っていたが、今年の10月、初めて共働して、新杉田、洋光台、港南台の駅頭で宣伝活動を行い、最終日には、大船でパレードをした。多くの参加者を得て、力強い活動ができた。9条の会は上からの指令、動員などがなく、地域に根ざした独自の活動を展開している。しかし今回、共働の宣伝活動ができ、点が線につながり、大きな意味を感じた。これからも、共働した活動をしよう確認し合った。忘年会は、3名の女性も加わって、十数名が集まり、にぎやかであった。来年の5月頃、集団的自衛権行使容認の閣議決定の法整備のために国会審議がなされそうなので、その頃、反対の集会をしよう話し合った。

港南台9条の会は原発工事に関わった人や大学教授などもおられるが、港南台に住む無名の市民たちが中心メンバーである。地元で根差した運動を展開している。洋光台9条の会と協力して、講演会を横浜港南台教会で何度か開いた。小中陽太郎氏、早乙女勝元氏、林博史氏、池住義憲氏などを招いてきた。毎月、例会を開き「私も平和の語り部」と題し、一人ひとりがスピーチをしてしいる。生い立ちから、9条の会に加わった経緯、そして、平和への思いを語っている。これらの語りを『平和へのバトン』という小冊子にして出している。そして例会後、港南台駅前で、交代してマイクを持ち平和を呼びかけ、毎月出している『港南台9条の会 ニュース』を配布する宣伝活動を行っている。

集団的自衛権行使や原発再稼働に焦点を当てず、アベノミクスを全面に出した衆議院総選挙で、安倍政権は勝利した。信任を得たと集団的自衛権行使や原発再稼働を強引に進めるのではないかと恐れる。しかし、深刻にならず、陽気に運動を展開したいと思っている。メンバーは真面目で、憲法を守ろうとする篤い思いを抱いている。忘年会で、白熱した議論は止まることなく続いた。楽しい仲間を得て感謝である。

とにかく、戦争をしない。武器による戦いは報復を生み、連鎖は止められない。ペトロの手紙一3章11節bの「平和を願って、これを追い求めよ」の御言葉に従っていきたい。命を守り、平和を実現することが、主イエスの人間肯定の福音である。